**わくわく聖書セミナー　第5回　「王と神殿」**

前回は、出エジプトと十戒までを見てきました。

その後のイスラエルの歩みはどうだったのでしょうか。それを今回は見ていきます。

**モーセからヨシュアへ（民数記、ヨシュア記）**

イスラエルは約束の地カナンに近づき、その地を偵察しましたが、先住民を恐れてしまい、その結果38年間荒野を放浪することになります。

民数記１３：３２－１４：１、１４：６－１０、２２－２３

**士師たちの時代（士師記）**

「そのころ、イスラエルには王がなく、めいめいが自分の目に正しいと見えることを行っていた」（士師１７：６）

こんな時代でも、神様のあわれみは絶えることがありませんでした。（士師２：１８）

**最初の王　サウル（サムエル記）**

サムエル記上８：４－９，１９－２２

神様を信じないで、目に見える王に頼ろうとする民の要求を神様は受け入れてくださいました。

神様は私たちが間違った道を行くときも、私たちの自由に任せられるときがあります。放蕩息子の弟が財産の分け前を要求し出て行ったときも、自由にさせました。私たちの自由意思を尊重されるお方です。

神様は11節から「王を立てるということはこういうことなんだ」という警告を発しています。それでも民は王を求めました。しかし最初の王サウルは神様に従わなかったためにすぐに王位を失います。（１５：２２，２３）

**ダビデ（サムエル記）**

次に立てられたダビデは、イスラエル史上最高の王と言われています。

「ヘテ人ウリヤのことのほかは、一生の間、主が命じられたすべてのことにそむかなかった」（列王記上15:5)

詩篇の半分はダビデの詩ですが、そこにはダビデの真摯な告白と信仰が表されています。

預言者はダビデの子孫から救い主が生まれると預言しました。

聖書はダビデの罪も隠さずに描いています。

部下の妻を手に入れるために、部下を戦場で死ぬように仕向けました。しかし預言者に指摘されたダビデは深く悔い改めて神に立ち帰りました。詩篇51篇はこのときの悔い改めの祈りです。

**ソロモン（列王記）**

最初は良い王様でした。「何を与えようか」という神様の問いに「知恵をください」と答えました。列王記上３：９－１４　そしてとても立派な神殿を建てました。列王記上８：２７－３０

しかしソロモンは700人の王妃と300人の側室を召し集め、彼女たちによって偶像礼拝に陥ってしまいます。

**国の分裂と崩壊（列王記）**

ソロモンの死後、権力争いが絶えず、北イスラエル王国と南ユダ王国に分裂します。

紀元前722年、北イスラエルはアッシリヤによって滅ぼされます。

このとき、外国から強制移住させられた人々とユダヤ人の混血が「サマリヤ人」となります。

紀元前586年、南ユダはバビロンによって滅ぼされます。神殿と街は破壊され、民はバビロンに連行されます。これを「バビロン捕囚」といいます。エレミヤ９：１３－１６

**捕囚からの解放（エズラ記、ネヘミヤ記）**

およそ70年後、ペルシャの王はイスラエルへの帰還を許し、南ユダ王国の人々はカナンへ帰り、神殿と街を再建します。そのころ彼らが「ユダヤ人」と呼ばれるようになりました。

バビロン捕囚の苦い経験から、彼らは偶像礼拝を根絶し、律法順守に励むようになります。

しかし、「律法を厳格に守らねば救われない」という律法主義が生まれ、イエス様と律法学者、パリサイ人たちは対立することになります。

**変わらぬ神の愛**

イスラエルはこのような暗い歴史を通ってきましたが、神様は沈黙していたわけではありません。

その時代にはたくさんの預言者が現れ、神様のことばを王や民衆に語りました。

預言者は、彼らの罪に対して警告のメッセージを語りましたが、同時に神の愛と憐みと希望を語りました。

エレミヤ２９：１０－１４　３１：３－４、２０

**神の国の完成に向かって**

しかしイスラエルも神様に背いてしまいました。これは全人類のモデル、あるいは縮図と言えると思います。

そしてイエス様によって、真の神の国が始まり、その完成の途上に今私たちは生きていることになります。

次回は預言書を通して、神様の熱い思いを知りたいと思います。

ホセア書11章を読んできてください。できればホセア書全体をお読みください。分かりにくいところは気にせずに飛ばして結構です。